

小学部 第4・5学年1組 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和7年11月18日（火）

3校時（10:40～11:25）

場 所：小学部4・5年教室

授業者：加賀美砂子（T1）、草階 朋子（T2）

宇佐美朝子（T3）

1 単元名 屋台だ！わっしょい！②～小学部のみなさん！いらっしやい！

2 単元設定の理由

(1) 児童について

本学習グループは、4年生男子2名、5年生男子3名、女子1名、計6名で構成されている。5名は、簡単な言葉でのコミュニケーションができ、全体指示や、友達の様子を手掛かりに活動へ参加できる。1名は、言葉のみでの指示理解は難しいが、写真や友達の様子を手掛かりに見通しをもち活動することが増えてきた。

相手のことを考えて接することがまだ難しい児童が多いが、学級の友達と遊ぶことは全員好きである。ゲーム性の高い遊びを好むが、勝ちたい思いが強く、ルールを守れなかったり、口調や身振りがきつくなったりすることがある。また、経験したことや興味があることを話すことが好きで、具体的な質問や、二者択一の質問に答えることができるが、考えを求められると、言葉にするまで時間が掛かったり、友達の言葉をそのまま話したりすることがある。

手指の巧緻性の面は、実態の幅があるが、個々ができることや得意なことを生かすことで、集中し丁寧に取り組むことができ、仕上がりのよさを自分で実感したり、友達や教師に褒められたりすることに喜びを感じている。これまでの生活単元学習等では、自分の役割を理解し、一人でまたは友達と順番に分担して作り進める学習を積み重ねてきている。

(2) 単元について

7月に東湖八坂神社祭典に出掛け、本物の屋台遊びを体験し、様々な屋台遊びを楽しみたいという思いを強くもった。その後、学校に戻ってからも、射的や金魚すくいなどの遊びを自分たちで楽しんだ。屋台遊びを繰り返していく中で、店員役とお客さん役を交代で行ったり、声を掛け合って屋台遊びのセッティングをしたりするようになった。屋台の運営も楽しめるようになり、自分たちでも屋台をやってみたいという意見が子どもたちから出てきた。

屋台では、お客さんの立場に立って準備物の作成や配置等を考えたり、アイデアを伝えたりする力も育める。繰り返し活動することで、自分の役割を果たすだけでなく、少しずつ、屋台のルールや友達の役割など、周囲の状況を見て自分から行動したり、気付いたことを伝えたりする力を高められるのではないかと考える。

また、屋台の準備では、個々の得意なことを取り入れながら、難易度を調節したり、がんばりポイントを明確にしたりすることで、どうすればよいか自分で考えながら進めたり、慎重に丁寧に取り組んだりする意識を高めることができると考える。

前単元で、6年生の児童を招待したところ、お客さんの動きやルールを分かりやすく伝えることなど課題はあったものの、楽しんでもらうことができ、開店の喜びにつながった。本単元では、児童がこれまで楽しんできた「射的」と「金魚すくい」の2つの屋台に分かれ開店を目指す。小学部の児童全員を招待することで、一層、お客さんが楽しめる屋台にしたいという思いをもって、友達と協力したり、自分から取り組んだりする力を育てたいと考える。

本単元（題材）は、主に以下の特別支援学校小学部学習指導要領生活科、国語科の内容を取り扱う。

<u>小学部 生活科 2段階 カ 役割</u>	
(ア)	身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事。
(イ)	簡単な係活動などの役割について知ること。
<u>小学部 生活科 3段階 カ 役割</u>	
(ア)	様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする事。
(イ)	集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
<u>小学部 国語科 3段階 内容 思考力・判断力・表現力等 ア言葉の特徴や使い方</u>	
(カ)	相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。
<u>小学部 図画工作科 2段階 A表現 ア身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形を作るなどの活動</u>	
(ア)	材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。
(イ)	身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。

(3) 指導に当たって（児童の学びをつなぐ工夫など）

児童の学びを縦・横につなぐ工夫については、以下の表のとおりである。

縦のつながり	前年度 ・ 前単元	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生を招待し、屋台を楽しんでもらう機会を設定した。「看板があるといいね」などのアドバイスを受けたことを覚えており、「看板作らなきゃ」と話すようになったことから、看板作りを単元計画に組み入れた。 ・看板のデザインや景品を考える活動では、昨年学習したタブレット端末を使った検索やスクリーンショットの機能の活用を取り入れる。
	前時	<ul style="list-style-type: none"> ・接客の様子を動画で振り返ったり、即時的に気付いた改善点をメモしたりすることで、児童がどうすればよりよい接客をすることができるのか気付いたり、思い出したりできるようにする。 ・学んだことを記憶に留め置いて思い出したり、次の単元へつなげたりできるように、掲示物に写真や感じたことを表す。
横のつながり	各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら活動できるよう、友達と一緒にできる役割を意図的に取り入れる。 ・図画工作「書道アート」で取り組んだ毛筆を取り入れる。 ・児童によっては、国語科で学習していることを想起できるような言葉掛けや、手本の提示をする。

また、本単元の指導において、次のことを重点的に工夫する。

- ・児童の実態を考慮し、2つのグループに分かれて活動する。話合いの場面では、何を決めるのか明確に伝える。必要に応じて教師が仲介して発言を整理し、分かりやすく言い直したり、選択肢を示したりする。また、児童がどうすればよいか考え、工夫したり支援を求めたりしたときや、友達のよいところに気付いたときの発言を即時的に認めたり、つぶやきを復唱したり、表情やしぐさから考えを予測し代弁したりする。
- ・グループの友達と看板や景品の完成イメージを共有できるよう、模型や試作品を児童のアイデアを取り入れて作り、用意し、活用する。

3 単元の目標

- (1) 小学部の友達が分かりやすく、楽しめるポイントを理解して、開店の準備や接客練習をする。【知・技】
- (2) お客さんが楽しめる屋台にするために、必要な準備物やデザインを考えて友達に伝えたり、準備物や接客の出来栄に適切な判断をしたりする。【思・判・表】
- (3) お客さんに屋台を楽しんでもらうことに期待感をもって友達と協力して進めたり、開店を目指して自分から取り組んだりする。【学】

4 単元の指導計画（本単元の総時数 60時間 本時 13/60）

小単元名 ・主な学習活動	時数	目標	主に指導する教科
(1) 開店準備をしよう① ・誰を招待しよう？ ・好きな物アンケート ・看板・景品等のデザイン決め ・看板・景品等の作成	本時 13 / 24	・招待する人について考え、楽しんでもらいたいという気持ちをもつ。 ・これまで自分たちで楽しんできた経験などから、必要なものを考える。 ・写真や画像などを参考に、お客さんにとって分かりやすく、楽しめるポイントを理解して作りたい看板やのぼりのデザインを考えて作る。	生活 国語 算数 図画工作
(2) 開店準備をしよう② ・各屋台のルール確認 ・各屋台の進行の練習	18	・各屋台のルールについて話し合っ決めて。 ・準備や接客の際の自分の役割を覚え、気を付けることを確認しながら練習する。	生活 国語 算数
(3) 屋台やさん開店！ ・小学部の友達を招待して	20	・練習の中で出てきたポイントを理解して、友達と協力して開店準備や接客に取り組む。	生活 国語 算数
(4) 屋台やさん大成功！	2	・お客さんからの感想を聞いたり、写真や動画で友達や自分たちの様子を見て、気付いたことを話したりして、次回の開店に向けてがんばりどころを見付ける。	生活 国語

※ (1) と (2) は、適宜組み合わせせて実施する。

5 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・看板作りで自分が気を付けることを意識しながら役割を果たしたり、友達と協力して進めたりする。

【思・判・表】

(2) 個別の実態と目標及び手立て

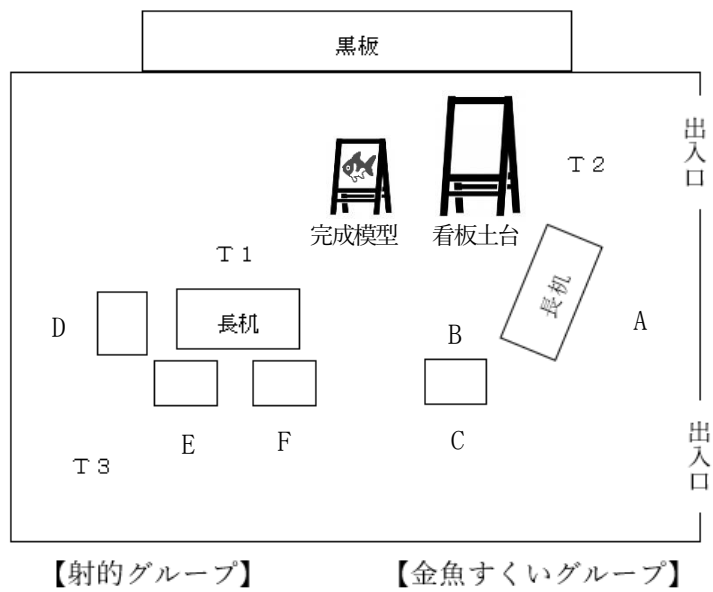
	児童名	実態	目標	手立て
金魚すくい	A 【金魚のうろこ貼り】	繰り返し取り組み見通しをもつと、準備物や手順などに自分で気付いて進められるようになってきている。活動の途中でも自分の世界に入ってしまうことがあり、教師の言葉掛けが必要なことがある。	ペアの友達と、相手の進み具合を見合いながら、うろこの色の順番や貼る位置に気を付けて金魚の飾りを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアの友達と一緒に考えて進められるよう、使う道具や材料は明示しておき、教師は見守るようにする。 ・ペアの友達の進み具合に気付き順番等を配慮する様子があったら、次からも自信をもってできるように、教師が即時評価する。
	B 【金魚のうろこ貼り】	工作など、やり方が分かると自信をもち、じっくりと取り組む。こうしたらいいのではないかという思いはあるが、言葉で表現するまで時間が掛かる。自信がないと友達の意見に同調することが多い。	うろこの色の順番や貼る位置を自分で判断したり、分からなくなったときは自分から聞いたりしながら、ペアの友達と金魚の飾りを作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・うろこを貼る順番が分かるよう、台紙に線を引き番号を書いておく。 ・安心して取り組めるよう、パーツやボンドが足りなくなったときは、教師に伝えるよう、事前に伝える。 ・自分から伝えられたときは、称賛する。
	C 【金魚のイラスト色塗り】	見本があると、同じくなるようバランスを見て貼ったり、絵を描いたりする。繰り返し経験していることに関する質問には、すぐに言葉が出るが、急な質問には、友達のつぶやきをそのまま答えることがある。	友達に「もう少し上」、「いいよ」などと声を掛けながら、看板の見本を見て、台紙に文字や飾りを配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・貼る前にグループで集まり、バランスを見て友達に方向を伝えること、いいよと言われたら貼ることを教師が伝える。 ・本時の発言を待ち、よい言葉掛けができたときや、バランスよく貼れたときは、大いに称賛する。
射的	D 【飾り作り(鉄砲)】	見本があると、試行錯誤しながら同じように仕上げようとしますが、パーツを順番に重ねるなど少し複雑になると難しいことがある。	見本を見て、手順や使う材料を自分で判断しながら作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・見本となる飾りの鉄砲を用意し、シールで手順を示す。 ・自分で選べるよう、銃身の素材を2種類用意する。
	E 【飾り作り(ふち飾り)】	点つなぎができる。毛筆で書くことに意欲的である。友達と一緒に、同じ活動することが好きで、友達の様子を見て取り掛かることが増えてきている。	使用する道具を自分で準備し、担当する「し」の文字を、点つなぎのやり方で書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の際、友達の様子を見て自分から準備できるよう見守ったり、「見て」と指さしたりする。 ・筆で書く際は、紙に目印となる始点と終点を付け、書く前に教師と一緒に点つなぎのやり方になる。
	F 【飾り作り(的)】	自分から友達を助けようとする優しい面もあるが、言い方がきつくなったり、自分の考えに固執し、押し付けるように感じられたりすることもある。	友達がのぼりの文字と飾りを並べ終わってから、よい点と、改善点を理由を付けて話す。	<ul style="list-style-type: none"> ・よい点と、改善点があるときは理由も話すというポイントを付箋紙に書き机に貼る。 ・事前に選んだ看板のデザインをいつでも確認できるよう模型で掲示しておく。

(3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点
5	<p>1 本時のめあてと学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて がんばりポイントに気を付けて文字や飾りを作ろう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで活動をする気持ちや、活動への期待感を高めるために、日直の合図で合言葉を言う。 ・めあてや、本時の活動が分かるように、今日作る看板の土台と前回作った模型を提示する。 ・児童が、頑張ることを意識できるよう、個別のポイントは、グループに分かれてから必要に応じて伝える。
35	<p>2 グループに分かれて看板を作る。</p> <p>金魚すくいグループ</p> <p>(1) 看板の飾りを作る。 (2) 看板の文字と飾りを土台に配置する。</p> <p>射的グループ</p> <p>(1) 看板の文字を書く。 (2) 看板の飾りを作る。 (3) 看板の文字と飾りを土台に配置する。</p>	<p>【看板の文字を書く】※射的グループのみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から準備ができるよう、使用する筆や下敷き、文鎮などの道具を置く場所は一定にする。机に敷く紙に、道具を置く場所の印を付けておく。 ・個別の目標に応じて、担当する文字をあらかじめ決めておく。がんばりポイントに気を付けて書けたときは、十分に称賛する。 ・書いたものを、教室から廊下に運び出す際は、グループの友達と協力できるように見守るが、一人で困っている児童がいるときは「〇〇さん、一人で困っているね」とグループのメンバーに気付きを促す。 <p>【飾りを作る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>A、B、Cが自分たちで取り掛かれるよう、使用する道具や材料を、それぞれワゴンに乗せてまとめておく。</u> ・Fが的を作る際、自分で考えて貼るかT1が質問する。補助の印などの支援が必要だと思ったら、自分から話せるよう見守る。 ・Eが、同じ番号か見比べて選択していけるよう見守るが、手が止まったときは、T3が指差しをしたり、「これと同じ番号はどれですか」と尋ねたりする。 <p>【土台に貼る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>金魚すくいグループが3人で考えを伝え合いながら貼れるよう、「Cに聞いてごらん」と教師が間に入りながら、AとBで位置を調整するよう促す。</u> ・Dが自信をもって貼れるよう、看板の完成予想図を掲示しておく。困ったときは、Fに聞くよう促す。
5	<p>3 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が頑張ったことを実感できるよう、「頑張りポイント」に沿った評価を端的に伝えながら、看板の当てはまる箇所に花丸カードを貼る。 ・児童が思ったことを言葉にしやすいうよう、看板のよいところや頑張ったことを児童に質問したりし、自由に話す時間を設定する。 ・予定表を提示し、4校時には、土台に貼り付け、看板を完成させることを伝える。

※波下線は抽出児童に対する手立て

(4) 配置図、座席表



(5) 評価

児童：自分のがんばりポイントに気を付けながら、友達と活動に取り組めたか。

教師：がんばりポイントに気を付けて活動を進めたり、友達と協力して活動したりするための教材や提示の仕方、言葉掛けは適切であったか。